

CONTENTS

今月の授業：「ドル平泳法」指導の要点 平田和孝

特集 教師の自立と教育課程づくり

【かぜ】教育課程づくりと教師の自立 成瀬 徹…………… 7

【論考】

「考えない主権者」を求める社会 —「考えない教師」の土壌を突き止めるために 川畑博和 …… 8

【実践のひろば】

みんなが伸びる養父小プラン 井上憲雄…………… 12

3年間を見通した学年づくりと体育の授業 飛田知江美…………… 16

知的欲求を満たすもの 鈴木佳子…………… 20

【仲間とつくる教育課程】

子ども・仲間と創った「器械運動クロスカリキュラム」 山内基広…………… 24

仲間とつくる教育課程づくり 岨 和正…………… 28

【教育課程づくりの周辺ルポ】

わたしがこんな授業をしようとしたら、ハードルの存在を思い知った次第 垣見里紗…………… 32

卒業式に向けての取り組みで、厳しい現実を知った！ 八田篤司…………… 33

連載

時代を拓く実践をたどる：

「ドル平泳法」の実践 —「こうする」といいから「なぜそうする」といいのかわ — 平田和孝…………… 34

幼・保の現場より：幼稚園の責任者として 子安崇夫…………… 38

私と子どもたち：体育授業のインターンシップ 伊藤嘉人…………… 40

私たちの授業研究：初めての協同研究 —シュートボールの授業づくりを通して— 小田 聡…………… 42

図書紹介：森下博友／志茂雅哉／宇田ともえ…………… 45

紀恵のスポーツアングル：結果をもたらす土壌 山本紀恵…………… 46

読者の声：嶋村新一／寒田丈太郎…………… 47

東西南北：石井崇史…………… 48

編集後記・次号予告…………… 50



教育課程づくりと教師の自立

成瀬 徹

「教師は考える必要はない。(上からの)指示に沿って動けばよい」という耳を疑うような現実があるという。(本誌12年11月号、大貫)

私の回りでも「考えるな!」とまでは云われませんが、「考えない」教師が増えているのが率直な印象だ。

トップダウンの現場は安心感があるという。教育内容も、日々の教育活動やそこに派生する諸々の出来事は、学習指導要領や「上の人」の指示通り動いていれば責任を問われることもなく、依りかかる指針も自ら作り出す必要もなく、「安心」という、今日の先生にとってはとてつもなく大きな担保を獲得することになる。

際限なく襲い掛かってくる仕事と多忙化、上意下達の学校・職場、成果主義と競争の現場、モンスターペアレントの出現等々考えれば「安心」を確保したい気持ちはわからないわけでもない。

ただし、子どもや父母・地域の学習要

求や一顕在化した要求も潜在化している要求も含めて一子どもたち自身の成長と彼らが生きていくべき日本社会の未来をじっくりと見つめることで導き出される教育内容を無視すれば!という条件付きではあるが…。

そういう意味で「考えない教師」やそれを作り出そうとする「体制」と「教育課程づくり」は対極にあると云ってもいい。

なぜならば教育課程づくりは子どもや社会を教師自身が丸ごと掴もうとするとところから始まる営みであり「目的—内容—方法—評価」という教育実践の全面的把握に基づく営みであるからだ。

教育課程づくりは教師の自立と不可分であり、彼らはきっと 本当の「安心」を、未来を担う子どもたちの成長のなかにこそ見つけようとしているのかもしれない。

(なるせ とおる/愛知支部)